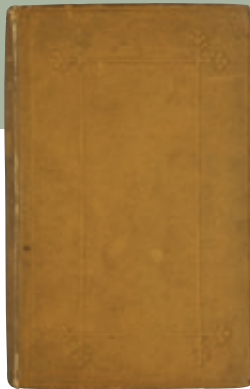


# ブック村だより

## 特集

本学コレクション紹介(8) J・S・ミル	
『女性の隷従』初版, 1869年	高橋 哲雄 (1)
大阪商業大学図書館所蔵	
貴重書目録の電子化について	(2)
ぶつくす・なう	(4)
『麦酒(ばくしゅ)の家の冒険』	谷岡 一郎
『ケース・スタディ 戦後日本の企業家活動』	中野 安
『謀略銀行』	佐和 良作
『カノッサの屈辱』	下山 晃
学生の声	深澤 智彦 (6)
	松浦 康之
図書館で雑誌記事を探す	(7)
インフォメーション・開館案内	(8)



### 本学コレクション紹介(8) J・S・ミル『女性の隷従』初版, 1869年

J・S・ミルは女性の解放について時流を抜く進んだ立場をとっていた。本館に初版と2, 5版が所蔵されている『女性の隷従』(1869)はその代表的論考である。

ミルの女性観はその女性関係と深く関わっていた。彼は24歳のとき、1つ歳下の人妻ハリエット・テイラーと恋に落ちた。彼女は非凡な知性と文学的感受性の持主で、以後ミルの著作には彼女の存在と思想が色濃く反映される。2人は彼女の夫の

死によって18年後結婚するが、その7年後彼女は旅先で急死する。気落ちしたミルを、今度はハリエットの連れ子ヘレンが支える。彼女もしっかりもので、『女性の隷従』は実質的に彼女の作といわれたりもした。

これではまるで『女性への隷従』ではないか？彼の有名な最期の言葉“I have done my work”も、ヘレンへの「ボク宿題ちゃんとやったよ」という訴えとも響くのだ。(名誉教授・高橋 哲雄)

# 貴重書目録の電子化について

## はじめに

大阪商業大学図書館には、世界最初の複式簿記書であるL. パチョーリの『スママ』をはじめとして、経済学や経営学関係、思想、文学などの分野の貴重な原典本と翻訳本および関連研究書を所蔵し、その数は全体で701点に達している。とりわけ、重要な図書は初版をはじめ多くの版本を取っており、これにより原典の各版の比較対照が可能となり、研究上大きな意味があるものと思われる。

貴重書目録は、平成3年10月に、D. ヒュームをはじめA. スミス、T. R. マルサス、D. リカード、J. S. ミルなどイギリス古典派経済学関係の主要著作と若干の書簡を選定し、『古典派経済

学図書目録』として発行した。

今回はこれらの貴重書はもとより、本学が所蔵する全ての貴重書を対象に表紙・表題を画像化し、これに書誌情報と書誌解題を付してデータ化し、図書館ホームページ上で学術研究資料として学内はもとより、広く国内外に公開できるシステムの構築を進めています。なお、書誌解題は前回同様、本学経済学部経済学科の野原秀次助教授にご協力いただいた。

また、本誌『ブック村だより』第18号から「本学コレクション紹介」欄に、本学名誉教授・元図書館長の高橋哲雄先生による解題・解説を連載中です。ホームページ上での公開は平成17年4月からの予定です。



大阪商業大学図書館ホームページ「貴重書目録」



「大阪商業大学図書館貴重書庫」

## 貴重書の概要

### 《D. ヒューム コレクション》

『道徳・政治論集』の初版(1741)から第3版(1748)までを揃え、『グレート・ブリテン史』と『イングランド史』の初版と仏語および独語訳を含む合計97点がある。

### 《アダム・スミス コレクション》

『道徳感情論』の第3版と第5版を除いた第9版までの全ての版と3種の異版本、仏語訳1点がある。『国富論』は初版(1776)から第11版(1822)までのすべての版を収め、ほかにダブリン版など33種の版本と4種の仏語訳を含め合計127点を収めている。

### 《T. R. マルサス コレクション》

『人口論』初版(1798)から第6版(1826)まで全ての版と『地代論』『価値尺度論』および『経済学原理』の初版を含む合計28点がある。

### 《D. リカード コレクション》

『経済学および課税の原理』（『原理』と略称）の初版(1817)から第3版(1821)と仏語訳、独語訳、デンマーク語訳、ゴナー版を含む合計76点所蔵している。

### 《J. S. ミル コレクション》

『自筆書簡13通』と哲学上の代表作『論理学体系』は初版から第10版まで、経済学に関しては『経済学原理』初版(1843)から第9版(1875)までと、ほかに3種の異版本を含む合計126点を収めている。

### 《G. G. バイロン コレクション》

『チャイルド・ハロルドの巡礼』の初版(1812)を含む合計165点所蔵。

このほかに、ルカ・パチョーリ『算術、幾何、比と比例大全』初版(1494)を含む合計82点を所蔵している。



## 『麦酒(ばくしゅ)の家の冒険』

(講談社, 2000.5)  
西澤 保彦 著

道に迷った男女4人が辿り着いたのは、ベッドとクローゼットに隠してある冷蔵庫だけという山の中のヘンな空き家。その冷蔵庫の中には、冷えたジョッキ13個とビールのロング缶がなんと96本。4人はその家で一晩過ごし、ついでにビールをありがたく(ひたすら)飲みつつ、誰が何の目的でこのビールを用意したのかを推理する。やや変わった設定の安楽椅子探偵ものだが、主人公のタック(匠(たくみ)千暁(ちあき))は思いもかけない結論に至り、結果として重大な犯罪を解決することになる…。

本書のタックを中心とする4人は、いずれも個性豊かな大学生である。西澤保彦は1995年に『解体諸因』でデビューして以来、年に数冊のペース

で内容の濃い作品を出し続けている作家であるが、特におもしろいのがタックたち4人のシリーズ(匠千暁シリーズ)であり、本書はその3冊目にあたる。このあと4冊目『仔羊たちの聖夜』、5冊目『スコッチ・ゲーム』、そして6冊目の『依存』でシリーズ全体の頂点を極めることになる。

今回3冊目をお勧めしたのは、本書の設定が他に例を見ないほど奇妙で、しかも単独で楽しめるからである。本当は『解体諸因』からシリーズで読んでほしい。他にはSF仕立てのミステリー、『七回死んだ男』や『人格転移の殺人』なども極上のエンタテインメントである。

(学長 谷岡 一郎)



## 『ケース・スタディ 戦後日本の企業家活動』

(文眞堂, 2004.3)  
法政大学イノベーション・マネジメント研究センター、  
宇田川 勝 編

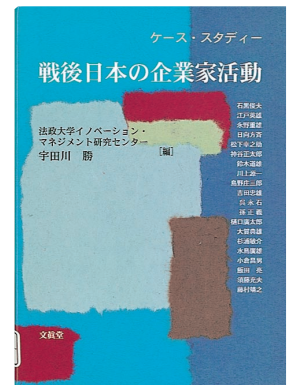
本書は戦後期を復興期・高度成長期と安定成長・バブル期に分け、さらに「大企業セクター」とベンチャーないし中堅・中小企業の「企業家セクター」に分けたうえで、経営革新に関連した興味深いテーマ(計10)ごとに有名な2人の企業家を取り上げ比較考察するというユニークな構成をとっている(しかもこの種ケース・スタディでは珍しく、失敗例も2ケース取り上げている)。

たとえば、テーマ「戦後の大衆消費社会を創出した企業家活動」のもとに「家電王国の形成者」松下幸之助とトヨタの「販売の神様」神谷正太郎がペアとして取り上げられ、2人がいかなる経営課題に直面し、何をなしとげたかを簡潔に比較考

察する。そして興味をもった学生諸君がさらに研究を進められるよう、テーマおよび個人にかんする主要な参考文献が掲げられるというサービスぶりだ。

こういう形式で、「企業パラダイムの変革者」として樋口廣太郎(アサヒビール)と大賀典雄(ソニー)、『『中堅企業』形成者の企業家活動』として島野庄三郎(シマノ)と吉田忠雄(YKK)、「マイノリティ新世代の起業家活動」として呉永石(学校法人呉学園)と孫正義(ソフトバンク)、その他が取り上げられる。幾つかのテーマはきっと諸君の興味をひくはずで、どこからでも読み始めることができる。

(総合経営学部 教授 中野 安)



## 『謀略銀行』

(ダイヤモンド社, 2004.7)  
大塚 将司 著

昭和61年10月、住友銀行は首都圏を地盤とする平和相互銀行を吸収合併し、東京と中心とした多数の店舗を手に入れ、首都圏への本格的な進出を果たすことができた。

平和相互銀行はもともと悪いうわさの絶えない銀行であった。経営者一族のファミリー企業への多額の貸出が不良化していたからである。このため、債務超過の状態に陥っていた。しかし、東京の山手線や中央線などの主な駅前に店舗を有しており、関西を地盤とする住友銀行にとって勢力を拡大していくためには魅力的な銀行であった。

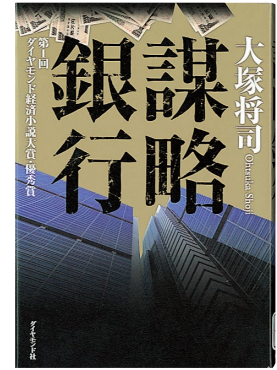
簡単に吸収合併が行われたわけではない。本書は、大銀行に吸収合併されることに反対する人たちを主人公に描かれている。主人公たちはあらゆる

策を講じて合併阻止に向けて戦った。しかし、政官財、さらには検察までもが加わった陰謀に巻き込まれてあえなく敗れ去る、という物語である。

およそ20年前に実際に起きたこと（名前は全て仮名となっている）が小説となって世に出てきたのは、関係者の大方が、すでにこの世を去ってしまったからであろう。

実話であるからこそ迫力がある。新聞やテレビで報道されるのは表の部分だけで、その裏ではどのような醜い戦いが繰り広げられているのかは関係者以外知る由もない。現在UFJの争奪戦を東京三菱と三井住友が行っているが、いずれこの間の事情が小説となって出てくるのが楽しみだ。

(経済学部 教授 佐和 良作)



## 『カノッサの屈辱』

(フジテレビ出版, 2004.8)  
小出 裕一 [ほか] 編

時々、学生諸君に「先生え、何か面白い歴史の本、ある？」と聞かれることがある。「自分で探しや」と言うのが当然なのだけど、機嫌の良い時に、たまに「ほい！」と貸してあげるのが本書である。宣伝文句には「1990年、フジテレビ深夜番組で始まった一見大学講義風の番組は、当時の流行や社会の兆候をすどく分析し、その真面目とおバカの境界線のギリギリっぷりで91年度ATP賞グランプリを受賞」とある。娯楽番組のシナリオ本であるが評判が良く、最近復刻版が出た。

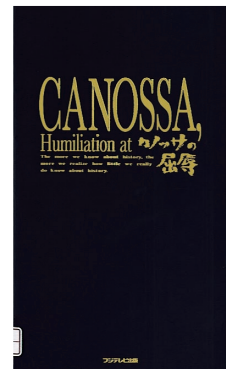
皆が皆、自分自身がどのような社会に住み、物事をどのように感じたり考えたりするのか、良く知っているようでホントには全然知らないのでは

って、時には自分と自分の世の中を振り返って考えることが必要である。「汝自身を知れ」(ソクラテス)が肝要である。本書はその「振り返り」に導いてくれる恰好の考現学の本である。本書から進んで、本書で扱われるテーマや日用品の歴史にも目を向け、鶴見俊輔『戦後日本の大衆文化史』(岩波現代文庫)などに学んでゆく姿勢も自然と身につければ、読者諸君は必ずや「何か面白い歴史の本」に次々と出会うことになるだろう。ポピュラー・カルチャーからの歴史分析は海外でもはじまっており、「面白い本」はたくさんたくさん出版されているからである。

(総合経営学部 助教授 下山 晃)

知らぬ間に 史書に憑かれる 発火音

響太郎



## 『読書の喜び』

大学院地域政策学研究所

博士前期過程修了生 深澤 智彦

大阪商業大学新図書館「GATEWAY」が開館してからはや2年の歳月が経過し、文字通り大商大の顔として地域に定着した感がある。「GATEWAY」とのさまざまな思い出を築かれた方もたくさんおられることと思う。私が好きな6階のテラスからは、晴れた日には、司馬遼太郎もこよなく愛したという、生駒山系の山並が一望の下に見渡せ、爽快な気分がひたれる。このような恵まれた環境下に立地されている[GATEWAY]を学内・学外の方を問わずたくさんの方が利用されることをおすすめする。

私の図書館利用法であるが、まず検索用端末を用いて、自分が読みたい本を「書名」あるいは「著者名」から検索する。時には自分で探してみても見つからない場合もあるが、2階あるいは6階のカウンターで図書館員の方に聞いてみると快く探し

出してくださる。また自分が必要としている本が本学の図書館に置いていない場合でも、他大学の図書館から借りてもらうことも可能である。このように図書館の有効な利用法は数多く、図書館を利用することによって、あらゆる情報を得ることができる。かけがえのない学生時代をお過ごしの方々にも、このような図書館のシステムを十分に有効活用していただきたい。図書館は人類の知的遺産の宝庫であり、それを自分自身の遺産にすることができる。図書館という宝の山を目の前にして利用しない手はない。カネだけが世の中の財ではなく、人類が積み上げてきた知的遺産の膨大さに感嘆することも必要であろう。読書は人生のかけがえのない宝である。青春時代の読書によって自身の思想・人格が形成される。一度しかない自分自身の人生であるが、読書によって、たくさんのほかの人々の人生に触れることができる。多くの学者や政界人、財界人も先哲の書に学び座右の銘をもっている。若年層の活字離れが言われて久しいが、学生時代こそ読書の喜びを知ることができる絶好の機会だと思う。

## 『私の図書館活用法』

経済学部 経済学科3年  
松浦 康之

近鉄電車に乗って生駒側に小阪駅を出るとすぐに、北側に真新しい周りより少し高いビルが見える。大阪商業大学と書かれた看板を掲げているそれこそが、図書館だ。この真新しい図書館も、オープンから月日も経ち、ずいぶんと大学にも馴染んできたと思う。

図書館はとてもいいところだと思う。旧図書館時代よりも明るく近代的な作りになり、閲覧スペースも増えた。お勧めは3階、4階あたりの窓際のスペースだと思う。大波が押し寄せたかのようなテスト前は座席確保が大変だけど、それ以外の引き潮の時は、まるで自分の席が決まっているかのようにいつも同じ席が使える。ここは私のお気に入りスポットでもある。

そのほかにもまだまだ図書館のお勧めはある。インターネット環境があれば、家にいても図書館

の蔵書検索ができることだ。これによりわざわざ図書館に行かなくても本の検索ができる。私は図書館で本を借りる前は、よくこの蔵書検索を家でやって調べてから行くことにしている。これにより時間を効率よく使え、本を見つけやすくなった。

またノートパソコンを借りられるというのも魅力的だ。図書館内は無線LANにより、どこへ持っていってもインターネットを使うことができる。本で調べながらインターネットでも調ることができ、レポート作成の時はかなりお世話になっています。

図書館が新しくなって、さまざまな便利な機能が増えました。また、大学図書館らしく、閲覧スペースもたくさんあり、とてもいいと思う。図書館をこれから、もっともっと活用し尽くしてやろうと思う。





# 図書館で雑誌記事を探す

授業で出された課題にとりかかる際、とりあえず図書館を訪れては見たものの、そこからどこへ行けばよいのか困ってしまった経験をお持ちの方は、結構沢山いるのではないのでしょうか。今回は、日常よく見受けられる事例をご紹介します。

## 【質問例】

テキストに引用されている「参考文献」を入手したいので、図書館にある公開端末の「蔵書検索」メニューで検索してみました。著者名でも、文献のタイトルでも見あたりませんでした。

テキスト該当箇所の「参考文献」には、**『奥林潔「量刑についてのケース研究」判タ52巻19号』**とありました。これは以下の事を意味します。

「奥林潔」…文献の執筆者氏名です。  
「量刑についてのケース研究」…文献名です。  
「判タ」…掲載誌の略号です。法学関係など、誌名の略号は引用時によく使用されます。多くの場合、略号を調べるためのツールが存在します。「判タ」は雑誌名「判例タイムズ」の略号です。  
「52巻19号」…「判例タイムズ」の巻号です。

つまり、【『判例タイムズ』という雑誌の52巻19号に、奥林潔氏の執筆した「量刑についてのケース研究」という論文が掲載されている】ということがわかります。

質問者に確認してみると、キーワードを「**量刑についてのケース研究**」および「**奥林潔**」として検索したとの事でした。

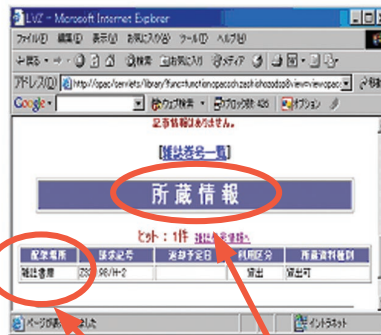
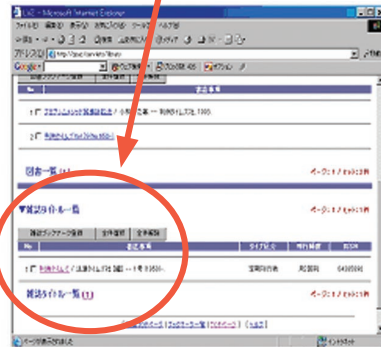
この例のように、文献が雑誌記事である場合は、まず掲載誌名で「蔵書検索」を行い、本学所蔵の有無を確認する必要があります。

略語「判タ」の正式な誌名を調べるには、法学系雑誌「判例時報」（本学2階に所蔵）の毎年1号に掲載される「文献略語表」が便利です。

この表で「は」の項目を参照すると、「判タ」が「判例タイムズ」であると判明しました。

同じ「蔵書検索」メニューで「判例タイムズ」

と入力すると、「タイトル一覧」が表示され、本学で購入されている雑誌であることがわかりました。



次に、文献が掲載されている「52巻19号」が所蔵されているかどうかを確認する必要があります。

検索結果画面に表示される「所蔵情報」によると、「配架場所」は「雑誌書庫」と表示されています。

本学の場合、雑誌の置き場所は、2階の「新着雑誌コーナー」と、「図書館分室」（旧図書館1階）の「雑誌書庫」とに分かれています。

「判例タイムズ」52巻19号は、「図書館分室」で受付を行ったのち、職員の指示に従って、閲覧・複写することができます。

必要な雑誌が本学に所蔵されていない場合は相互利用制度により、他の機関から記事のコピーを取り寄せることができます。図書館6階にあるレファレンスカウンターで相談を受け付けています。

## 図書館インフォメーション

### ◆新着図書案内を発行しています

図書館に入荷された図書のリスト「新着速報」を毎月発行しています。図書館カウンター・研究室・教員控室・大学院事務室に置いてありますので、どうぞご活用下さい。

### ◆平成16年度上半期に寄贈された本学教員著書は下記の通りです。(教員名50音順)

※配架場所は、本学教員著書コーナーです。

田崎公司先生 『野口英世21世紀に生きる』／小暮葉満子，田崎公司編。（日本経済評論社，2004）

長尾和英先生 『教職と人間形成』／長尾和英編著；塩見慎朗 [ほか] 著。（八千代出版，2004）

中津孝司先生 『エネルギー国際経済』／佐藤千景，島敏夫，中津孝司編著。（晃洋書房，2004）

『イラク戦後の中東経済』／島敏夫，中津孝司編著。（同文館出版，2004）

『ロシア東欧産業新地図』／中津孝司編著。（創成社，2004）

東田政重先生、湖中斉先生、大橋正彦先生、南方建明先生

『中小企業経営の諸問題』／日本経営学会関西部会編。（八千代出版，2004）

宮田由紀夫先生 『アメリカの産業政策：論争と実践』／宮田由紀夫著。（八千代出版，2001）

八尾 晃先生 『国際商取引入門』／亀田尚己，小林晃，八尾晃著。（文眞堂，2004）

### ◆卒論作成用の特別貸出について

4年生の皆さんは、卒業論文作成のための特別貸出ができます。

延長手続きを行わずに、1ヶ月借りることができます。

希望者は、貸出時にカウンターまで申し出て、手続きを行って下さい。

### ◆卒業後も図書館を利用できます

卒業生は利用者登録をすると、図書館を利用することができます。希望者は、身分証明書に該当するもの（免許証、保険証など）および写真（3cm×4cm）1枚を持参の上、図書館2Fカウンター「利用者登録受付」まで申し出て下さい。

### ◆冬期休暇期間中の長期貸出について

冬休みの学習・研究用に長期貸出サービスを行います。実施期間中は図書の貸出すべてに適用されます。手続きは通常どおりです。詳細はポスター・掲示板でお知らせします。

## 開館案内

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 <sub>30</sub>	24 <sub>31</sub>	25	26	27	28	29

●は休館日です。

上記以外にも臨時休館日を設ける場合があります。時間変更等、詳細は学内掲示・モニター・ホームページ等でお知らせ致します。  
開館時間は平常通り（月～土 9：00～20：00）です。

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第25号 平成16年11月30日 発行 大阪商業大学図書館  
〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10 電話(06)6781-5280 FAX(06)6781-0089  
e-mail : lib@oucow.daishodai.ac.jp ホームページアドレス : http://www.lib.daishodai.ac.jp